GX680Ⅲ/GX680ⅢS Professional

使用説明書

本機をお買い上げいただきありがとうございました。
本機を正しくお使いいただくために、この使用説明書をお手元へお届けいたします。内容をよくご理解の上、お使いください。
なお、GX680ⅢSはGX680Ⅲに対して、アオリ機構を削除し小型化したモデルで、他の操作方法はGX680Ⅲと同様です。
使用説明書を共通化しましたことを、あらかじめご了承願います。

バーコードシステム対応

安全にご使用いただくために

●この製品及び付属品は、写真撮影以外の目的に使用しないでください。
●製品の安全性には十分配慮しておりますが、下記の内容をよくお読みの上、正しくご使用ください。
●この説明書はお読みになった後で、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警告	⚠ 注意
この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

絶対に分解しないでください。けがなどの恐れがあります。

カメラ(電池)が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、直ちに電池を取り出してください。発火ややけどの恐れがあります(電池を取り出す際、やけどには十分ご注意ください)。

カメラを水中に落としたり、内部に水または金属や異物などが入ったときは、直ちに電池を取り出してください。発熱・発火の恐れがあります。

引火性の高いガスが充満している場所や、ガソリン、ベンジン、シンナーなどの近くでカメラを使用しないでください。爆発や発火・やけどの恐れがあります。

電池の分解、加熱、火中への投入、充電、ショートは絶対にしないでください。爆発の恐れがあります。

指定以外の電池を使わないでください。発熱・発火の恐れがあります。

⚠ 警告

新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。また、電池の⊕⊖を誤って装てんしないようにご注意ください。電池の破裂、液もれにより、発火、けがや周囲を汚損する恐れがあります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤って飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

カメラをぬらしたり、ぬれた手で触ったりしないでください。故障の原因となることがあります。

自転車や自動車・列車などを運転している人に向けて、ストロボ発光撮影をしないでください。交通事故などの原因となることがあります。

目　次

CE　このマークは、安全性、衛生、環境及び消費者保護に関するEU（欧州連合）の要求事項を、製品が満足していることを証明するものです。
（CEとはヨーロッパ認定（Conformité Européenne）の略）

各部の名称

①シャッタースピードダイヤル
②AE モードロックボタン
③フィルムワインドボタン
④モード切り替えダイヤル
⑤モード切り替えロックレバー
⑥引きぶた
通信コネクター
⑦リモートレリーズソケット
⑧ミラーアップ･ダウンスイッチ
⑨シンクロソケット
⑩シンクロテストボタン
⑪ストラップ取り付け部
⑫レリーズボタン
⑬絞り込みレバー
⑭絞り調節レバー
⑮フォーカスロックレバー
⑯フォーカシングノブ
⑰折りたたみファインダーフード
⑱蛇腹
⑲ライズ／フォール
ロックノブ
前枠着脱ねじ
前枠
⑳シフトロックノブ
㉑サイドカバーロック解除ボタン
㉒ティルトロックノブ
㉓スイングロック解除レバー
OFF
CONTINUE
MULTI
FILM WIND
MIRROR
UNROCK

本体LCD表示部

㊺ LCD表示部（ロールフィルムホルダーⅢ）

＊液晶部はすべての表示が現れている状態です。

特　長

GX680Ⅲはプロが最も活躍する場である、スタジオ撮影を主眼にして開発したカメラシステムです。スタジオ撮影の主体はポートレート・静物・商品写真に代表されますが、いずれの場合も、非常に微妙なライティングによって構成され、高度な撮影技術が要求されています。
GX680Ⅲは高度な撮影技術に対応し、しかも使い勝手を重視することで、プロの写真家が被写体に全神経を集中して撮影に専念できる、真に「プロが使うプロ用カメラ」を具現するカメラとして開発いたしました。
GX680Ⅲをプロの方々が手にしたとき、そこには新しい創作意欲を必ず持たれることと信じます。

1. プロ用マルチフォーマットの採用

被写体のフレーミングに最適で、プリント及び印刷時のトリミング効率が高い理想のフォーマット6×8cm（実画面56×76mm）を基本に、フォーマットマスクの交換により、6×7cm、6×6cm、6×4.5cmのフォーマットでの撮影が可能です。さらに、縦位置、横位置撮影が自在に変えられるレボルビング機構を内蔵しています。

2. 撮影に専念できるモータードライブ一眼レフ

速写機能に富んだモータードライブ、電子制御式レンズシャッターの一眼レフ方式。カメラ操作の煩わしさを解放し、使い勝手を重視した機能は、撮影に全神経を集中できるプロ向けスペックです。

3. 画期的なプロ向け機構の内蔵

◇ホルダー単体で、1コマ目自動セット可能な専用ロールフィルムホルダーⅢ
◇画面外に年月日・時分・撮影データ・フレームNo.写し込み機能
◇不具合箇所が一目で分かるカメライラスト表示
◇レンズ・カメラ本体・ロールフィルムホルダーⅢ各々のトータルショット数表示機能
◇フィルムのスタートマーク合わせ不要の完全自動給送システム
◇異常露出・未露光やストロボ同調不良を警告する異常露出警告モニター
◇ストロボのテスト発光・シンクロコードの同調テストができるシンクロテストボタン
◇フィルム最終コマを事前に電子音で知らせるラストコマ警告ブザー
◇撮影準備完了を一目でチェックできるスタンバイモニター

4．高度な撮影テクニックを駆使できるレンズ面アオリ機構

シャープネスのコントロール、画像の修正を可能にするレンズ面アオリ機構を装備。
シャッターの電子制御化と、大きなイメージサークルを有する交換レンズ群により、一眼レフで初めて各種アオリ操作を可能にしたプロ仕様です。

5．本格的プロ向けシステムカメラ

プロのニーズを徹底的に追求し、開発したレンズ群・各種ホルダー・リモートレリーズⅢなど、撮影領域を広げる各種アクセサリー類を準備しています。

6．バーコードシステムフィルムの使用

バーコードシステムフィルムの使用で、フィルムの設定ミス・誤操作を防ぎます。

◆ISO 自動設定
◆ 120/220 誤使用の警告
◆リバーサル・ネガ・黒白フィルムごとのデータ写し込み濃度自動設定

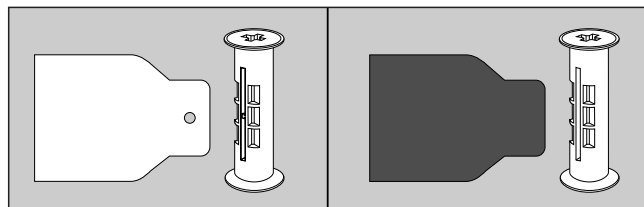
■バーコードシステムについて

富士フイルムのバーコードシステムは、フィルムの感度・120/220 の種別などの情報を、リーダーペーパーとフィルムをつなぐシール上に記録したバーコードをカメラが読み取って、自動設定するシステムです。

■イージーローディングについて

遮光紙をスプール溝に差し込むだけで、簡単・確実なフィルム装てんが可能な機構です。遮光紙先端部の穴をスプール溝に設けたフックに引っ掛ける簡単な構造で、遮光紙のたるみやフィルムの巻き太りを抑え、装てんをより確実にします。

イージーローディングのフィルム　　従来のフィルム

※ GX680ⅢS には、アオリ機構が装備されておりません。

各部機能の説明

①シャッタースピードダイヤル
B·8～1/400秒及びAEモード。**A**（AE）モードはAEファインダーⅢ装着時にのみ連動します。

②AEモードロックボタン
AEモードのロック・解除に使用します。

③フィルムワインドボタン
MULTIモードにて多重露出後、次のコマへフィルム送りさせます。

④モード切り替えダイヤル（モード切り替えロックレバー）
OFF・SINGLE・CONTINUE・MULTIのモードを切り替えます。

⑤モード切り替えロックレバー
MULTIモードにセットする場合、解除する場合に使用します。

⑥引きぶた
引きぶた挿入時のみにホルダー交換が可能で、ホルダー単体時には引きぶたが外れず、フィルムを不用意に感光させない安全装置と連動しています。挿入場所を明確にする白色表示と、挿入しやすいガイド付で、挿入操作が容易です。

⑦リモートレリーズソケット
専用のリモートレリーズⅢを接続します。

⑧ミラーアップ・ダウンスイッチ
ミラーのアップ・ダウンが、スイッチ操作で可能となります。

⑨シンクロソケット
シンクロソケットが本体側にあるため、レンズシャッターカメラでありながら、シンクロコードを接続したままレンズ交換が可能です。

⑩シンクロテストボタン
レリーズボタンを押さなくても、ストロボのテスト発光が可能です。ストロボの露出測定時、カメラ側でテスト発光ができ、さらにシンクロコードの断線、接続不良もチェックが可能です。

⑪ストラップ取り付け部
ストラップを取り付けます。

⑫レリーズボタン
右手親指で上から下へ押すレリーズ操作となり、手持ち撮影時でも安定したカメラホールディングで、レリーズができます。

⑬絞り込みレバー
ファインダーを見ながら焦点深度確認が容易にできます。

⑭絞り調節レバー
不用意に触らないようにレンズ右側に位置し、1ステップごとのクリックストップによる絞り調節となっています。

⑮フォーカスロックレバー
合致したピントを確実に固定します。

⑯フォーカシングノブ
左右に装備した大型ノブでピント調節が容易です。

⑰折りたたみファインダーフード
ワンタッチで跳ね上げ、たたみ込みが可能です。
⑱蛇腹
アオリには広角蛇腹、近接撮影には長尺蛇腹、目的に合わせて交換が可能です。
⑲ライズ／フォールロックノブ
ライズ／フォールずらし時は、ノブをゆるめることでアオリ部が上下に移動します。
⑳シフトロックノブ
シフトずらし時は、ノブをゆるめることでアオリ部が左右に平行移動します。
㉑サイドカバーロック解除ボタン
AC電源などを使用する際、カバーを取り外すためにロック解除するボタンです。
㉒ティルトロックノブ
ティルトアオリ時は、ノブをゆるめることでアオリ部が上下回転移動します。
㉓スイングロック解除レバー
スイングアオリ時はレバーを押し下げることでロック解除され、アオリ部が左右回転移動します。
㉔引きぶた収納ポケット
撮影中の引きぶたは、収納ポケットに挿入できます。置き忘れ、紛失防止に役立ちます。
㉕メモ板
撮影時に必要な事項などをメモする場合に利用します。エンピツで記入すれば消しゴムで消すことができます。
㉖裏ぶた開閉レバー
レバーを引き起こし、さらに押し下げることで裏ぶたが開きます。不用意に裏ぶたが開かない安全設計です。
㉗フィルムインジケーターポケット
フィルム外装箱のふた部を挿入すれば、ロールフィルムホルダーⅢ内の使用フィルムが一目りょう然です。
㉘レボルビングロック解除ボタン
ロールフィルムホルダーⅢの取り外しとレボルビング時には、ボタンを押すことでロックが解除されます。
㉙絞り表示窓
アクリル窓内にセットされた絞り値が表示されます。
㉚レンズロックレバー
交換レンズをガッチリ固定します。
㉛ファインダーロック解除ボタン（2カ所）
ファインダーを取り外すとき、ボタンを押すことでロックが解除されます。
㉜水準器
カメラを三脚・スタンドに設置する場合、水平セットが可能となります。
㉝UP/DOWNダイヤル
ISO感度設定、DATE,TIMEの設定、FRAME No.の設定に使用します。ISO感度はISO25～3200まで、1/3ステップごとのセットが可能です。
㉞ホットシュー
レンズ台座センターに設置してあり、アオリ操作をしても光軸に連動します。

各部機能の説明

㉟レンズロック解除レバー
不用意な操作で交換レンズが外れないように、解除レバーを押しながらレンズロックレバーを操作する2アクション方式です。

㊱本体LCDライトボタン
ボタンを押すとLCD部にバックライトが点灯／照明します。

㊲トータルショット数表示ボタン
カメラ本体、レンズ、ロールフィルムホルダーⅢ各々の撮影回数を100けた単位でLCD表示します。オーバーホール・定期点検時期の目安に利用できます。

㊳FRAME No.ボタン
ボタンを押すとフレームNo.の確認及び画面外写し込みの設定をします。UP/DOWNダイヤルとの併用でフレームNo.を設定します。

㊴1st FRAME SETボタン
ロールフィルムホルダーⅢ単体でボタンを押すと、1コマ目自動セットができます。

㊵DATA/ISOボタン
ボタンを押すとISOの確認及びDATAの画面外写し込み設定をします。UP/DOWNダイヤルとの併用でISOを設定します。

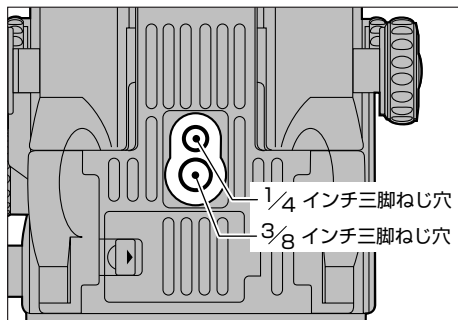
㊶DATEボタン
ボタンを押すと年月日、時分の画面外写し込み設定をします。UP/DOWNダイヤルとの併用で修正をします。

㊷ロールフィルムホルダーⅢ LCDライトボタン
ボタンを押すとLCD部にバックライトが点灯／照明し、暗所でもLCD表示を見ることができます。ロールフィルムホルダーⅢ単体でも、内蔵電池で点灯／照明します。

㊸スタンバイモニター
電池の残量、撮影準備状態及びカメラの異常作動状態をLCDで表示します。

㊹異常露出警告モニター
フィルムの反射光量をボディー内の受光部で検知、±2ステップ以内の露出は EXP 表示、±2ステップ以上の異常露出では＋・－のLCDで表示、絞り、シャッタースピードのミスセットなどがショット直後にわかります。さらにリモートレリーズⅢを使用すれば±2ステップ以上の異常露出時には、電子音で警告します（連動範囲ISO100：EV5～19）。

㊺ロールフィルムホルダーⅢ LCD（液晶）表示部
カメラの状態を、大型のLCDで表示します。さらに、カメライラスト、電池残量、カメラの各設定内容を表示、トータルショット数も累積算出表示します。また、スタンバイモニターと連動して撮影準備状態及びカメラの異常作動状態をカメライラストの点滅で警告します。

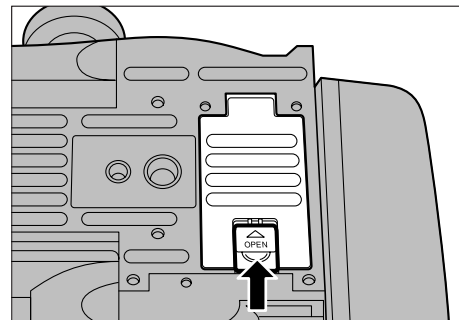
1. 三脚・スタンドへの取り付け

本体底部に JIS 規格の 1/4 インチと 3/8 インチの三脚ねじ穴が 2 カ所あります。
三脚ねじで本体をしっかり取り付けます。

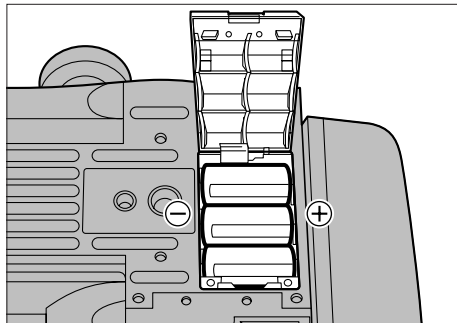
＊カメラぶれを防ぐため、三脚・スタンド及び雲台は、大型でしっかりしたタイプのものをご使用ください。

2. 電源について

GX680Ⅲは、リチウム電池 CR123A(相当)×3 本または、AC 電源で使用することが可能です。目的に合わせて選択し、ご使用ください。

＊AC 電源で使用する場合は、専用の AC アダプターが必要です。

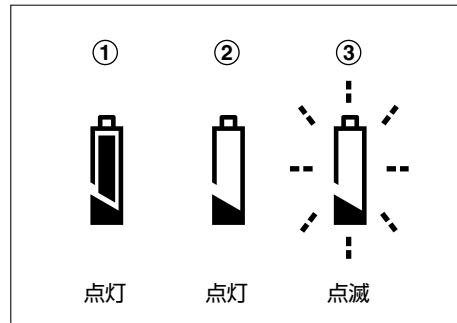
(1) リチウム電池を使用する場合

モード切り替えダイヤルを OFF にしてから、本体底部の電池ぶたロックレバーを矢印方向に押し、電池ぶたを開けます。

推奨電池：富士フイルム　エバレディ
CR123A 3 本(9V)

電池室に表示されている⊕⊖の表示に従って電池を入れ、電池ぶたを閉めます。

＊電池交換時には、必ず3本共に新品電池をご使用ください。新旧の混同使用は避けてください。

◆電池のチェック

モード切り替えダイヤルをSINGLEにすると、電池マークが表示されます。

＊電池を誤装てんした場合は、電池マークが表示されずカメラが作動しません。表示されない場合には、電池の装てんを再度確認してください。

◆電池の残量確認

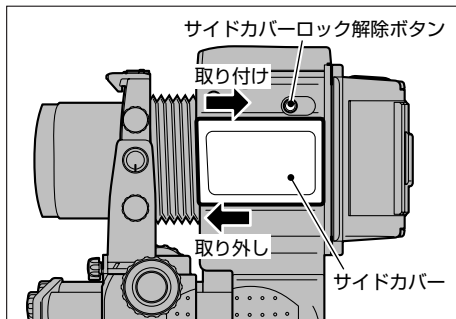
LCDの表示は、

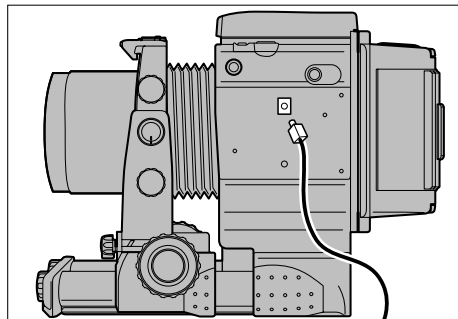
①電池容量OK

②電池容量が不足
新しい電池と交換してください。

③電池の容量が無くなったため、シャッターロックが掛かります。
新しい電池と交換してください。

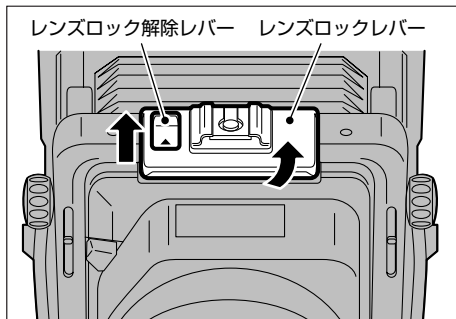
＊新品電池3本で約3,000ショットの撮影が可能です（当社試験条件による）。

(2)AC電源を使用する場合

サイドカバーロック解除ボタンを押しながら、サイドカバーをレンズ側にスライドさせ取り外します。

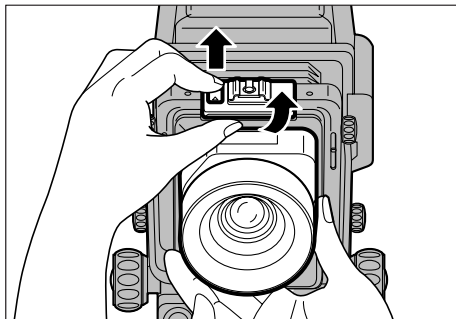
＊サイドカバーは、蛇腹が縮んだ状態での着脱はできません。その場合はレンズ台座部を繰り出してください。

ACアダプターのDCコネクターをカメラの電源コネクターに差し込みます。
ACアダプターにACコードのプラグを差し込み、反対側のプラグをコンセントに差し込むと、カメラへの電源が供給されます（このとき、カメラ内部の電池電源は自動的に解除されます）。

＊専用のACアダプター以外のACアダプターは使用しないでください。カメラの故障の原因になります。

3. 交換レンズの着脱

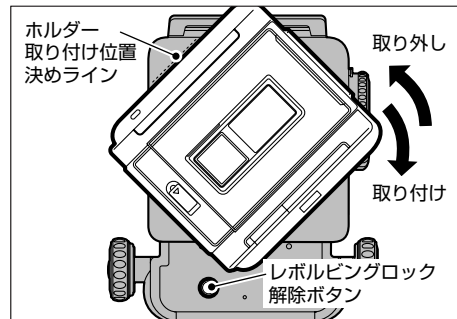
(1)取り付け方

レンズロック解除レバーを矢印の方向に押し付けながら、レンズロックレバーを上に持ち上げます。
この操作でレンズロックレバーは上向きで固定されます。交換レンズの絞り表示部を上向きにして、レンズボード下部をレンズ台座のフックに引っ掛けます。この状態で交換レンズをレンズ台座に押し付けることで、レンズロックレバーがロックされます。

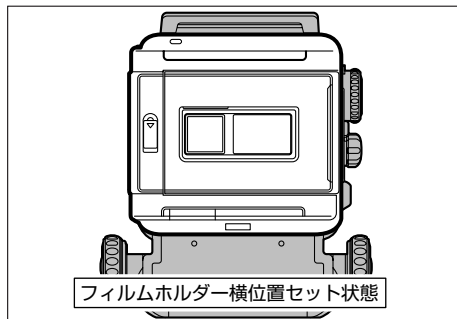
＊正規に取り付けていない場合、接点が不完全結合となり、スタンバイモニターが点滅します。このときは再度、取り付け直してください。

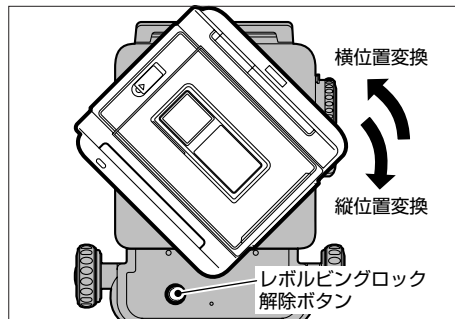
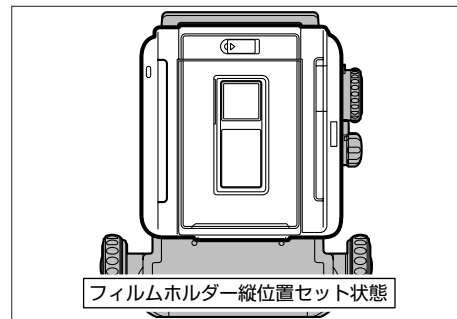
(2)取り外し方

交換レンズを手で支えた後、レンズロック解除レバーを矢印の方向に押し付けながら、レンズロックレバーを上に持ち上げます。

＊交換レンズを取り外す場合は、必ず交換レンズを手で支えた後、レンズロックレバーを操作してください。交換レンズを手で支えずにレンズロックレバーを操作しますと、交換レンズがレンズ台座から落下します。
＊交換レンズは旧タイプレンズ(GX タイプ)の使用も可能ですが、レンズの総ショットカウンターは作動しません。

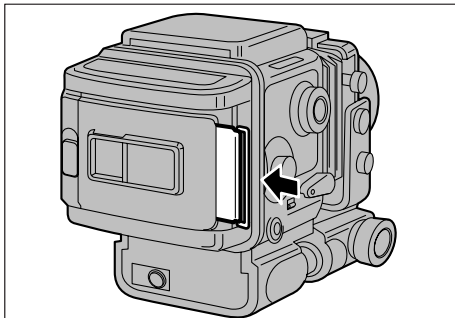
4. ロールフィルムホルダーⅢの着脱とレボルビング操作

(1)取り付け方

ロールフィルムホルダーⅢの上部枠を、カメラ本体背面の点線に合わせて、カメラ本体とロールフィルムホルダーⅢが密着した後、カメラ本体の矢印方向へ回転させます。
ロールフィルムホルダーⅢが水平になったところで、カチッと音がして横位置にセットされます。

(2)取り外し方

ロールフィルムホルダーⅢに引きぶたが挿入されていることを確認して、カメラ本体のレボルビングロック解除ボタンを押しながら、ロールフィルムホルダーⅢを左に45°回転することで外れます。

(3)レボルビングの方法

横位置から縦位置への変換は右へ90°、縦位置から横位置への変換は左へ90°、いずれもレボルビングロック解除ボタンを押して回転操作します。正規位置にはカチッと音がして止まります。

＊レボルビング操作は、ロールフィルムホルダーⅢに引きぶたが挿入されていなくても可能です。
＊ホルダーの着脱、レボルビング操作共、解除ボタンを押し続ける必要はありません。解除ボタンを押しながら、ホルダーが少しでも動けばロックが解除されますので、その後は解除ボタンから手を離してください。

本体LCD(液晶)表示パネルの見方

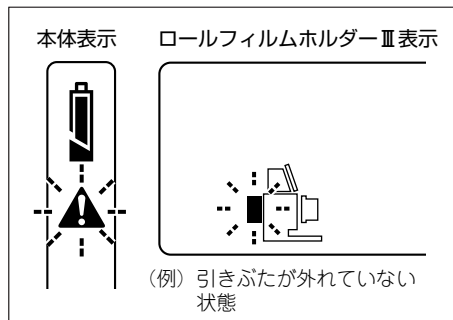
(4)引きぶたの操作

撮影中、引き抜いた引きぶたは、置き忘れや紛失防止のため、裏ぶたに引きぶた収納ポケットがありますので、必ず差し込んでください。

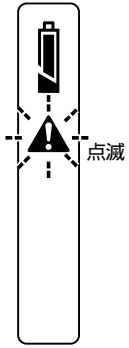
＊引きぶたを外したままでのロールフィルムホルダーⅢ取り外しは、安全ロックが掛かりできません。引きぶたを取り付けてから行ってください。

1. スタンバイモニターの表示

電池の残量確認、撮影準備状態（レンズ取り付けの有無、ホルダー取り付けの有無、引きぶたの在否、シャッタースピードとAEモードの区分）、及びカメラの異常作動（シャッター羽根の開閉作動､ミラー・遮光板の駆動、フィルム給送異常）をLCDで表示します。

(1) 撮影準備状態

（例）引きぶたが外れていない状態

レリーズすれば撮影できるか否かを、LCDの点灯及び点滅で識別表示します。
レンズ・ホルダーの取り付け時、接点が確実に結合しているか否か、引きぶたが挿入されているか否か、そして、シャッタースピードダイヤルがAEモードかマニュアル秒時か、以上の情報を検知して、LCDが撮影準備状態を表示します。

◆撮影準備完了の場合

撮影準備が完了すると、カメラ本体のLCDは電池マーク以外は消灯し、ロールフィルムホルダーⅢのLCDには、カメライラストがすべて点灯します。

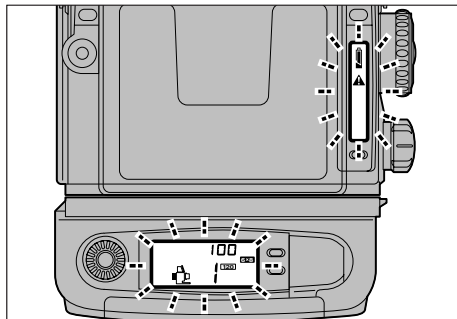
◆撮影準備未完の場合

情報の1ヵ所でも撮影状態になっていない場合には、⚠が点滅しカメラは作動しません。同時に、ロールフィルムホルダーⅢのLCD表示は、撮影状態になっていない部分のカメライラストが点滅しますので、再度確認してください。

＊不具合発生時にレリーズボタンを押すと警告ブザーが2回鳴り、本体LCDの⚠とロールフィルムホルダーⅢLCDのカメライラストの不具合箇所が点滅を続けます。

撮影準備未完表示

本体LCD	ロールフィルムホルダーⅢLCD	確　認　内　容
⚠ 点滅		●引きぶたの挿入確認 ●年月日、時分修正中、ISO設定中、追い番修正中 ●バーコード読み取りエラーの場合 ●ISO/AUTOモードでバーコードの無いフィルムを使用した場合
		レンズ取り付け部の接点の結合の確認
		AEファインダーⅢ使用時以外で、シャッタースピードダイヤルがAに設定されていないか

＊インスタントフィルムホルダー（Ⅰ）を取り付けると、常に⚠が点滅します。この場合、点滅状態でもモード切り替えダイヤルをMULTIモードにすれば操作は可能です。インスタントフィルムホルダーⅡを取り付けた場合は、⚠は消灯します。
＊折りたたみファインダーフード使用時に、シャッタースピードダイヤルがAモードになっていると、撮影未完の警告を出します。Aモードは AEファインダーⅢ使用時にのみ、ご使用ください。

(2)カメラが異常作動をした場合

撮影中にシャッター・ミラー・ホルダーが異常作動をした場合、または各部の通信異常が発生した場合には、本体LCDのバックライトとLCD表示が点滅し、ロールフィルムホルダーⅢ LCDのカメラのイラストも故障箇所を点滅します。
更に、警告電子ブザー音が12回鳴り、カメラの作動が停止します。

＊この異常作動警告が表示される場合は、レンズ及びロールフィルムホルダーⅢの接触不良がほとんどと推察します。接触不良と思われる場合は、接点をブロアーブラシにて清掃してください。その後、最初の1コマをカラ送りしてカメラの動作をチェックしてください。

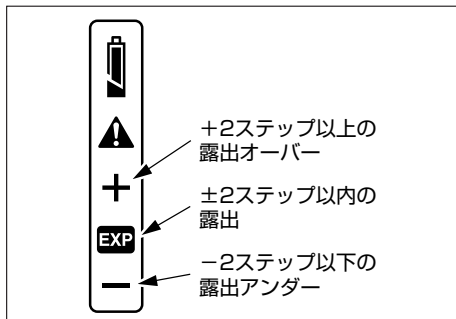
GX680Ⅲはミラー・遮光板・フィルム給送の状態をフォトカプラーでモニターし、作動途中で万一故障が発生した場合は、カメラの動きが中断されます。万一、カメラが故障した場合、最悪のケースを想定し、故障したままで撮影を続行することによる重大な撮影ミス(未露光など)を防ぐ、安全設計としています。

＊ロールフィルムホルダーⅢと本体の接点不良の場合は ⚠ が点滅し、ロールフィルムホルダーⅢ LCDのカメライラストが消灯し、電池マークが点灯または点滅します。

2. 異常露出警告モニターの表示

撮影時、レンズを通った光はフィルムに露出されますが、同時に反射もします。その反射光量を本体内部の受光部が検知して、露出量を本体LCDに表示します。

＊露出量の検知は、デイライト・タングステンライト・フラッシュ光など、光源の質を問わず表示します。

(1) EXP 表示の場合

設定した絞り値、シャッタースピード値が、適正露出値の±2ステップ以内の場合には、EXP が点灯表示します。

(2) +・−表示の場合

設定した絞り値、シャッタースピード値が、適正露出値の±2ステップ以上の場合には、"+"・"−" が点灯表示します。

この表示により、撮影したおよその露出状態や絞り、シャッタースピードのミスセットなどが、ショット直後に確認できます。

なお、リモートレリーズⅢを使用すれば、±2ステップ以上の異常露出のときは、警告電子ブザー音(700Hz)が5秒間、断続音として鳴ります。

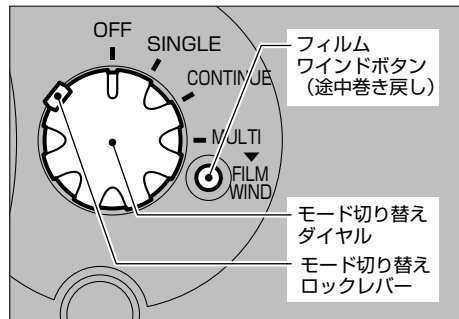
＊フィルム装てんをしていない場合は、圧板の反射を測定するため、通常"−"表示となりますので、ご注意ください。

＊使用するフィルムのフィルム感度を、必ず合わせてください（ロールフィルムホルダーⅢの使い方は25ページ、ISOフィルム感度の設定は28ページを参照ください)。

＊インスタントフィルムを使用する場合は、この機能は作動しません。

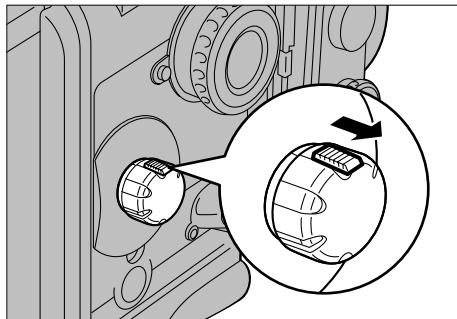
＊ロールフィルムの反射率はメーカー・品種によって、約1絞り程度の差がありますので、この機能の表示は目安とお考えください。同様にハイキー、ローキー、白色、黒色など、被写体の反射条件によっても、この機能の表示は変化します。

＊このカメラは出荷時、フィルム反射率をフジカラーネガNSに合わせ、被写体の反射率を18％グレーの標準反射被写体と仮定して調整してあります。従って、使用するフィルム、被写体によっては、"+"・"−" が点灯しても、必ずしも±2ステップ以上の露出とはなりませんのでご了承ください。

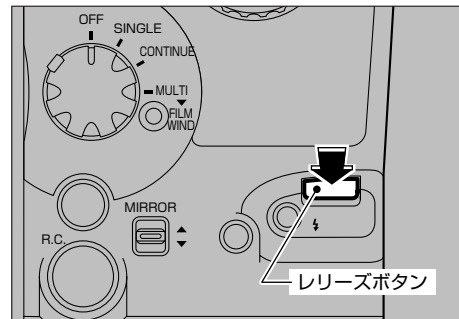
1. モード切り替えダイヤルの設定

①OFFモードの場合
電源をOFFすると本体LCD表示が消灯し、カメラは作動しません。

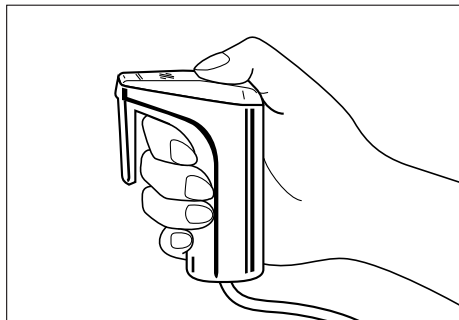
②SINGLEモード
電源が入り、レリーズ1ショットで約1秒で1コマのみ、フィルムを巻き上げます。

③CONTINUEモード
レリーズボタンを押し続けると、約1秒で1コマずつのフィルム巻き上げをする連続ショットが可能となります。

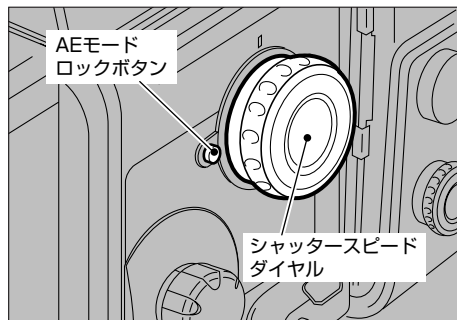
④MULTIモード
MULTIモードを使用/解除する場合は、ロックレバーをスライドさせながら、ダイヤルを回転させます。このモードでレリーズするとフィルムは巻き上げしません。

⑤フィルムワインドボタンの使い方
多重露出後、フィルムを巻き上げるときに押すと、1コマずつフィルムを送ります。

＊フィルムの途中巻き上げに便利です。
＊MULTIモード以外では、フィルムワインドボタンを押してもフィルムは送りません。
＊モード切り替えダイヤルをON状態で放置すると、電源は15分後に自動的にOFFします。この場合はダイヤルを一度OFFし、再度所定のモードにONしてください（電池使用時）。

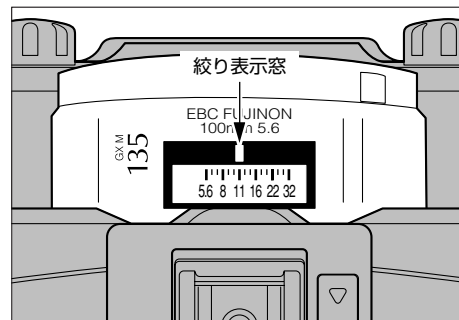
2. レリーズボタン操作

撮影準備完了状態であれば、レリーズボタンを上から下方向へ押すことでレリーズ作動します。

3. リモートレリーズⅢの操作

リモートレリーズⅢのコネクター部を本体のソケットに差し込み、撮影準備完了状態であれば、レリーズボタンを押すことでレリーズ作動します。
未使用時には、グリップ部のフックを三脚のパン棒などに引っ掛けておくと便利です。
なお、リモートレリーズⅢ使用時は、±2ステップ以上の露出の場合、警告電子ブザー音が鳴ります。この音量調節は、別項の応用操作をご参照ください（36ページ）。

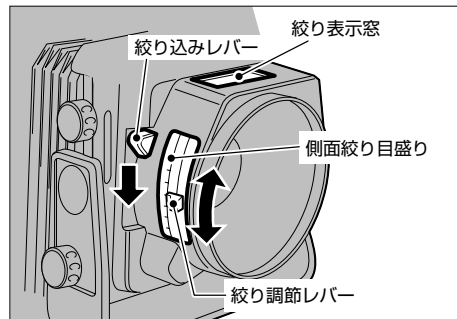
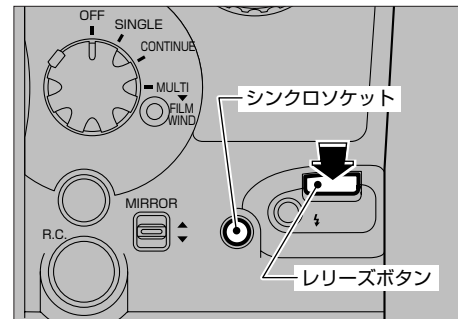
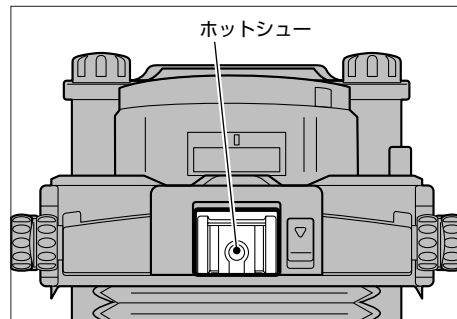
＊旧タイプのリモートレリーズは使用できません。リモートレリーズⅢをご使用ください。

4. シャッタースピードの設定

B・8～1/400秒及び A モードのセットが可能です。ストロボはレンズシャッターの全速度に同調します。

＊中間スピードは使用できません。

5. レンズ絞り値の設定と絞り込み操作

絞り値のセットは、交換レンズ側面の絞り調節レバーによって、1ステップごとのクリックストップで任意の絞り値がセットできます。

＊中間絞りの使用は可能です。

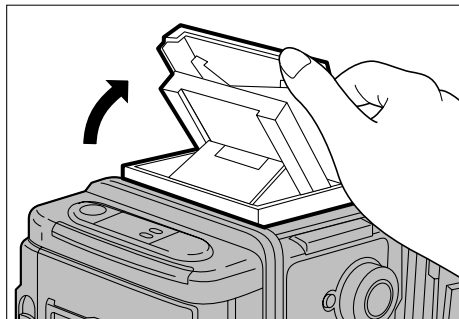
6. フラッシュ撮影

また、レンズシャッター式一眼レフカメラにつき、通常ピントは絞り開放で見ることになります。被写界深度の確認はレンズから見て、左側面の絞り込みレバーを上から下方向へ押すことで可能です。

レンズ台座部にホットシュー、本体にシンクロソケットと両方装備してあります。
シンクロ同調はX接点のみです。
レンズシャッターにつき、ストロボは全速度秒時でのシンクロ同調が可能です。

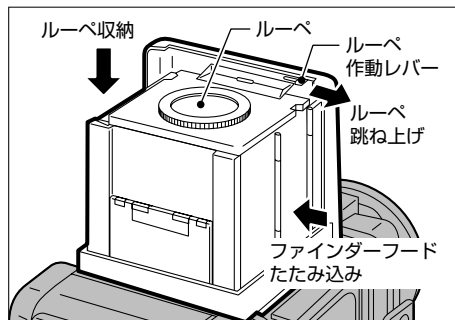
＊M級バルブは使用できません。使用するとカメラが壊れることがあります。

＊赤外シンクロ同調器のご注意

ストロボ本体とカメラを、コードレスでシンクロ同調させる赤外シンクロ同調器の使用も可能です。通常、この種の赤外シンクロ同調器はストロボを内蔵している製品がほとんどですが、一部の製品の中には、LEDを内蔵したタイプで、受信器側の応答時間が遅いタイプのものがあります。この種の受信器の応答時間が長く、タイムラグのあるLEDを内蔵したシンクロ同調器では、ストロボが発光しない場合がありますのでご注意ください。

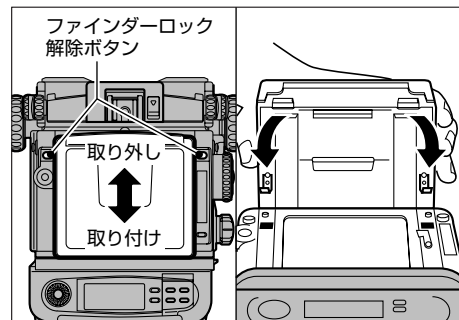
7. ファインダーフードの操作

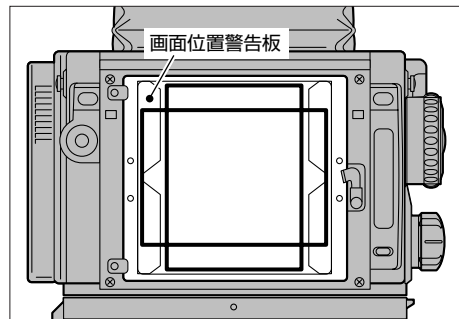
(1)開け方

ファインダーフードを上方向に持ち上げれば、自動的にセットされます。

(2)ルーペの操作

カメラを後ろから見て、ファインダーフードの右側切り欠き部にあるルーペ作動レバーを、右方向へスライドさせることでルーペが跳ね上がります。ルーペをたたみ込む場合は、ルーペボードを押し込みます。

(3)閉め方

ルーペが収納されていれば、ファインダーフード両側のちょうつがい部を内側に押さえることにより、自動的にワンタッチでたたみ込まれます。

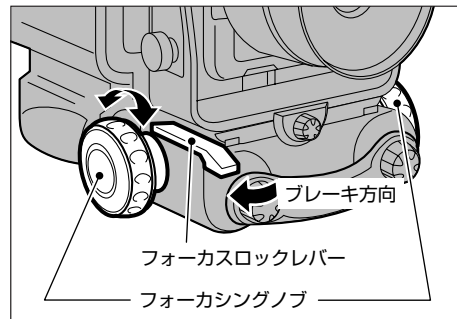
(4)ファインダーフードの着脱

２ヵ所のファインダーロック解除ボタンを押しながら、ファインダーフードをレンズ側へスライドすると取り外せます。
取り付けは、ファインダーフードの凸部を本体の凹部へ差し込み、ホルダー側へスライドさせます。

8. ファインダー視野の決め方

ファインダー内には横画面、縦画面の視野枠が黒線で表示されています。ロールフィルムホルダーⅢの横・縦位置状態によって、各々の視野枠内でフレーミングします。また、ロールフィルムホルダーⅢのレボルビングに連動して、画面位置警告板がファインダー上・下部（横位置）及び左・右部（縦位置）に表示されます。

- インスタントフィルムホルダーⅡは画面位置切り替えマスクの取り付けにより、ファインダーの画面位置警告板が連動します。
- インスタントフィルムホルダー（Ⅰ）を取り付けた場合は、画面位置警告板が縦位置表示のままとなりますので、ご注意願います。
- 6×6cm及び6×4.5cm用のファインダースクリーンを使用の場合は、画面位置警告板は見えません。フィルムホルダー正位置を縦画面90°レボルビングした位置が横画面となりますので、ご注意願います。

＊ミラー切れのご注意

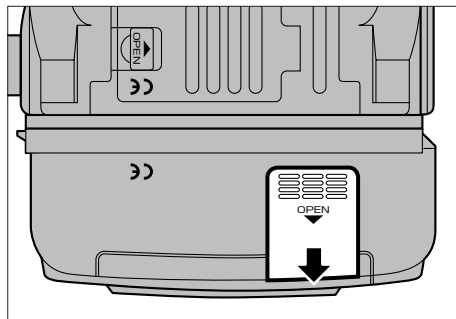
- カメラ本体の構造上、ミラーの長さ寸法の関係から、蛇腹の繰り出し量によっては、ファインダー上部の像がケラレて見えなくなります。f＝250mm以上の長焦点レンズでは、無限大撮影でも、ファインダー像がケラレます。
- 同様に、アオリ操作（主にティルトアップとフォール）をした場合もミラー切れして、ファインダー像がケラレることがあります。
- なお、交換レンズのイメージサークルは、カメラを最大アオリしても余裕がありますので、ミラー切れしてもフィルム上にはケラレは生じません。ただし、50mmレンズは最大アオリでケラレを生じます。
- 長焦点レンズによるミラー切れは、レンズ面をライズ操作によってファインダーのケラレがなくなります。

9. ピントの合わせ方

ファインダー像を見ながら、アオリ台部両側にあるフォーカシングノブによってピント合わせをします。
ピント合わせ後は、フォーカスロックレバーで確実に固定できます。

＊GX680Ⅲは、レンズ面にアオリ機能を装備したカメラです。∞距離での撮影時にもアオリ操作を可能とするため、各交換レンズはすべてフォーカシングの∞ストップがありませんので、ご注意ください。

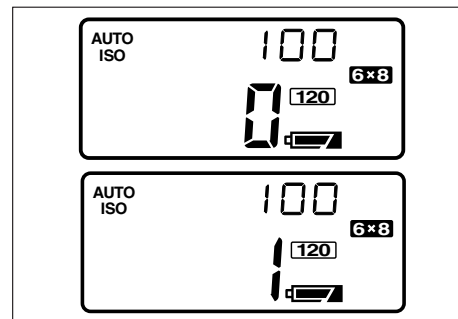
ロールフィルムホルダーⅢの使い方

- ロールフィルムホルダーⅢは、バーコードシステム対応のホルダーです。画面サイズ途中切り替え警告、データ画面外写し込み機能を装備し、バーコードフィルムの使用で、ISO感度自動設定、中枠誤使用警告が可能となります。
- ロールフィルムホルダーⅢは、中枠交換により120/220の使い分けができます。中枠は120/220各々専用です。
- ロールフィルムホルダーⅢ単体でフィルムの1コマ目セットが可能です。

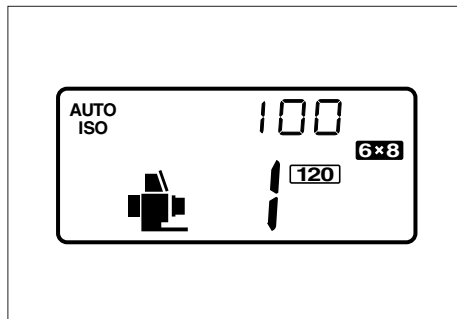
1. 電池の入れ方

ロールフィルムホルダーⅢ底部の電池ぶたを矢印方向にスライドさせ、外します。
電池室の⊕・⊖表示に従って電池を入れ、電池ぶたを閉めます。ホルダーのLCD部に ▭ が点灯すればOKです。
推奨電池：富士フイルム　エバレディ
　　　　　CR2 2本(6V)

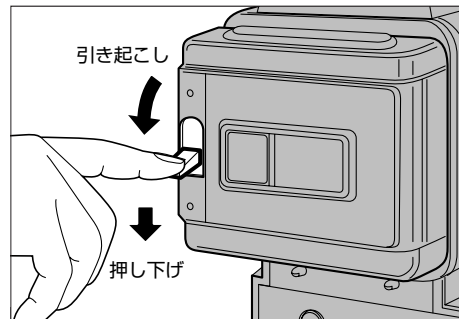
＊電池交換をすると、セットされているデータはすべて消滅しますので、必ず再セットを行ってください。ただし、ホルダーをカメラに取り付け、カメラの電源をONした状態で交換すれば、データは残せます。

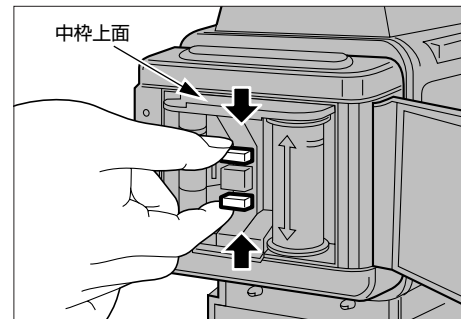
2. ホルダーLCD(液晶)表示の見方

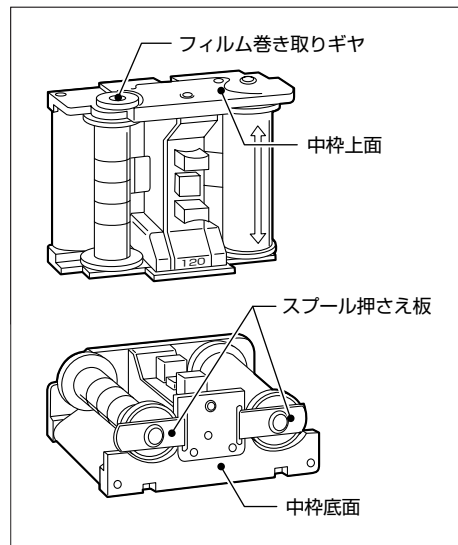
(1)ロールフィルムホルダーⅢ単体の場合

ホルダー内にフィルムが未装てんのとき、またはフィルム装てん直後には、カウンターは“0”表示となり、中枠の種別、画面サイズ、電池マーク、写し込みセット、ISOが表示されます。フィルムの巻き上げが完了し1コマ目がセットされると、カウンターに“1”が表示します。

＊バーコードフィルム使用時120／220が点滅しているときは、フィルムと中枠が合致していません。専用の中枠に入れ替えてください(26ページ参照)。
＊裏ぶたを開けるときは、カウンターが“0”または“E”表示のときに行ってください。
＊フィルムの巻き上げスタートは27ページを参照ください。

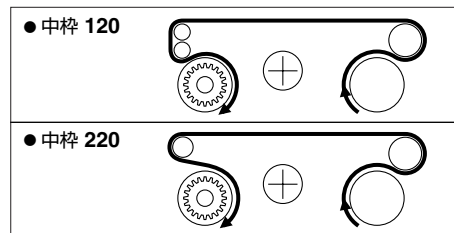
(2)ロールフィルムホルダーⅢを本体に取り付けた場合

カメラのスイッチがOFFのときでは、ロールフィルムホルダーⅢ単体と同様の表示になります。
カメラのスイッチをON（SINGLE、CONTINUE、MULTI）にすると、カメライラストが点灯または点滅し、電池マークが消灯します。

3. 裏ぶたの開閉操作

ロールフィルムホルダーⅢ背面左側にある裏ぶた開閉レバーを引き起こし、そのまま下方向へ押し下げると裏ぶたが開きます。
裏ぶたを閉じるときは、裏ぶた開閉レバーを引き起こした状態で閉じます。

4. 中枠の着脱

中枠中央の上下のつまみを矢印方向につまむと、ロールフィルムホルダーⅢとのロックピンが解除され、中枠が取り出せます。
装着の場合も同様に、上下のつまみを矢印方向につまんで押し込みます。この場合、中枠が確実にロールフィルムホルダーⅢにロック装着されていることを、中枠中央部をつまんで引っ張ることで確認してください。

5. スプールとフィルムの装てん

中枠上面にある巻き取りギヤ側にスプールを装てんし、反対側にフィルムを装てんします。スプール、フィルム共、中枠底面にあるスプール押さえ板を引き起こして装てんします。

6. フィルムの予備巻き

●フィルムの装てん図

GX680Ⅲは、ロールフィルムホルダーⅢ内のフォトカプラーによって、リーダー・トレーラーペーパーとフィルムの検知及びバーコードフィルムのバーコード検知をしています。したがって、中枠のスタートマークとフィルムのスタートマークを厳密に合わせることなく、1コマ目が正確にセットされます。
リーダーペーパーを巻き取り側のスプールの溝に差し込むと、先端の丸穴に溝内部の突起が引っ掛かり、抜けなくなります(イージーローディングでないフィルム及びスプールをご使用の場合にも、同様に先端をスプールの溝に差し込みます)。スプールにリーダーテープを巻き込み、左側にスタートマークが現れる位置までリーダーペーパーを巻き付けます。

7. 1コマ目の自動セット

(1)ロールフィルムホルダーⅢを本体に取り付けた場合

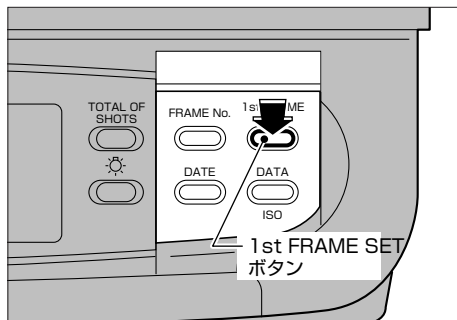
フィルムを1コマ目にセットするには、フィルムを装てんした中枠をロールフィルムホルダーⅢに取り付け、裏ぶたを閉じます。その後に、

- ●モードダイヤルをスイッチーON
- ●引きぶたの引き抜きによるスイッチーON
- ●裏ぶたを閉じることによるスイッチーON

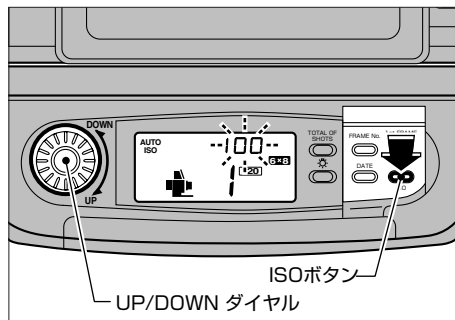
以上3つのスイッチが、すべてONになった状態で、自動給送セットされます。
また、モード切り替えダイヤルがOFFのとき、ロールフィルムホルダーⅢの1st FRAME SETボタンでも自動給送セットされます(引きぶた挿入時)。

＊120/220の中枠共、同様です。

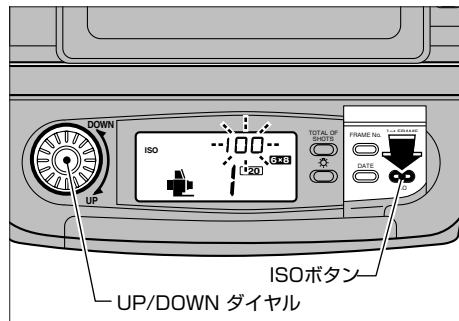
＊中枠は120/220各々専用となります。フィルムに合わせてご使用ください。
＊220ロールフィルムは、リーダーペーパーの先端からスタートマークまでの間が長いため、リーダーペーパーの先端をスプールに巻き込んだときに、フィルムのスタートマークがまったく見えない状態で、中枠をホルダーに装てんしてもかまいません。
＊中枠120のフィルム装てんの際は、巻き取り側の2本のローラーの間に、ペーパーを通さないでください。

8. ISOフィルム感度の設定

(2)ロールフィルムホルダーⅢ単体

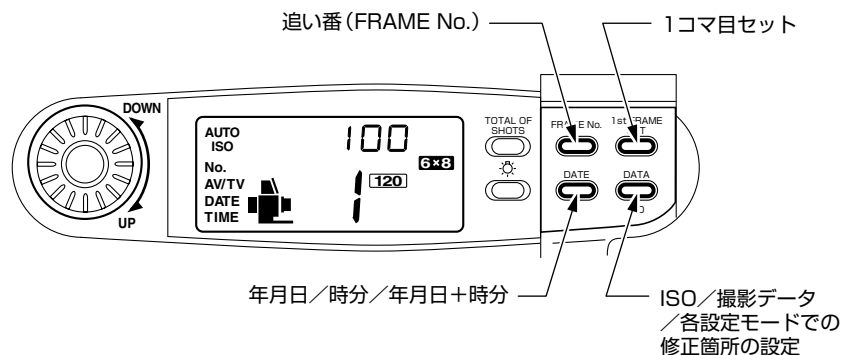
フィルムが装てんされた中枠をロールフィルムホルダーⅢに入れ、裏ぶたを閉じます。モードボタンカバーを開け、1st FRAME SETボタンを押すと、フィルムは自動給送されます（引きぶたが未装てんのときは作動しません）。

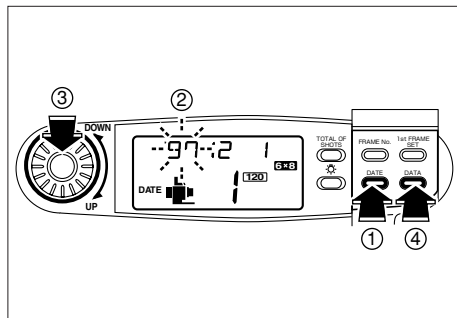
(1)バーコードフィルムを使用の場合

- モードボタンカバーを開け、ISOボタンを2秒以上押し続けると、ホルダーLCDにISO数値が点滅します。このとき、本体LCDは ⚠ が点滅しセット中を示します。
- UP/DOWNダイヤルを「DOWN」方向に1クリック回し、AUTO/ISOを点灯表示します。前回使用したフィルムのISO数値、または前回使用したフィルムがバーコード無しの場合“-- -- --”が点滅します。ISOボタンを押すとAUTO/ISO数値が点灯し、1コマ目セット後、ISO自動設定が可能になります。
- 1コマ目セット後に任意のセットを行う場合は、UP/DOWNダイヤルで、設定したい数値に合わせます。もう一度ISOボタンを押せばISO数値が点滅から点灯に変わりセット完了です。
このときAUTO/ISOで1コマ目自動セット後にマニュアルISO設定を行うと、AUTOが点滅し実際のフィルム感度と異なることを示します。

＊装てん時の巻たるみや使用期限切れのフィルム、保存状態の悪いフィルムを使用すると、フィルム情報を正しく読めないことがあります。
＊1コマ目セット後に“AUTO/ISO -- -- --”が点滅する場合は,バーコード読み取りエラーのため、シャッターロックが掛かります。マニュアル設定でISOを合わせると、正常に作動します。

(2) バーコードの無いフィルムを使用の場合

UP/DOWNダイヤルを回し、設定したい数値に合わせます。ISOボタンを押すと、ISO数値が点滅から点灯に変わりセット完了です。

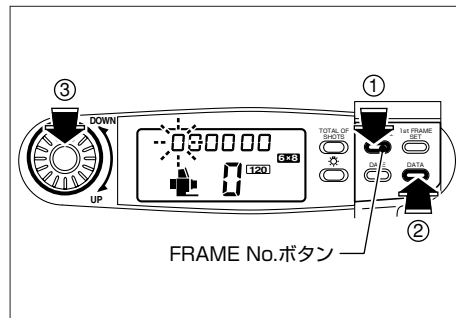
＊ ISO感度を誤っても、撮影結果になんら影響はありませんが、データの画面外写し込みの濃度に影響が出ますので、ご注意ください。また、露出警告モニターの表示は、設定したISO感度での測光結果となります。

9. 画面外データ写し込み

セットされたモードのデータが、フィルムの画面外に写し込まれます。
写し込まれるデータは、年月日(DATE)、時分(TIME)、年月日＋時分(DATE＋TIME)、撮影データ(DATA)、追い番(FRAME No.)ですべての設定が可能です。
6×4.5フォーマットマスクを使用するときの写し込み設定は、年月日(DATE)、時分(TIME)、年月日＋時分(DATE＋TIME)、"AV＋TV"、FRAME No.の5種類の中から1項目の選択となります。
各モードボタンを押すたびに、表示が順次切り替わります。セットするモードが表示されたときに、ボタン操作を中止します。
セットされたモードは、ボタンを離してから3秒間点灯表示した後、消えますが、液晶に写し込みモードの文字が表示され、セットしたモードに設定されていることを示します。

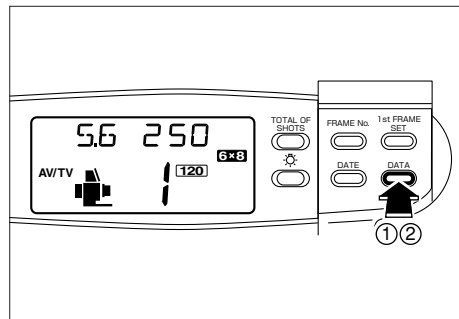
(1)年月日、時分の合わせ方

①DATE ボタンを 2 秒以上押します。
②年月日表示になり“年”の数字が点滅します。
③UP/DOWN ダイヤルを回し、設定したい数値に合わせます。
④DATA/ISO ボタンを押すたびに、変更する数値が順次切り替わります。
年→月→日→時→分→ ISO 表示になり設定完了。

⑤“分”の修正後にDATA/ISO ボタンを押すと“秒”が“0”にセットされISO 表示になり完了します(秒の表示はありません)。

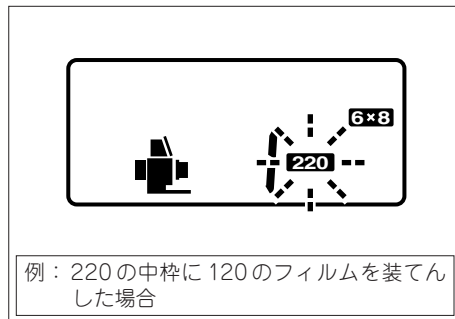
＊年月日表示は2050 年までのオートカレンダーになっています。
＊セット中は本体の ⚠ が点滅します。

(2)フレーム No.(追い番)の合わせ方

①FRAME No.ボタンを 2 秒以上押します。
②DATA/ISO ボタンを押すたびに、変更する数値が順次切り替わります。
③UP/DOWN ダイヤルで設定したい数値に合わせます。
④上位 3 けたには英数(0 ～ 9,A ～ Z)と記号(@＋－＊＝／<>＿｜^)が選択できます。
⑤下 3 けたは数字のみの選択になり、追い番のスタート番号を自由に設定できます。1 ショットごとに1 カウント加算し999→000 に戻ります。1000 ショット以上を整理する場合に、年月日/時分の写し込みと組み合わせて使用すると便利です。
⑥変更修了後、DATA/ISO ボタンを押せば、LCD はISO 表示になります。

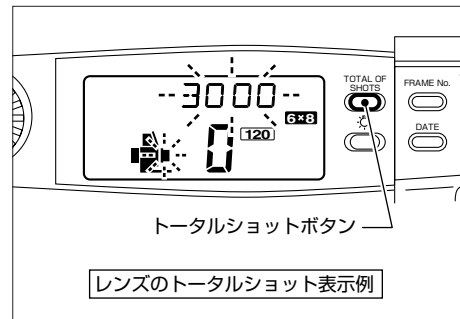
＊セット中は本体の ⚠ が点滅します。

(3) 撮影データ(DATA)の写し込み

①DATA/ISOボタンを押します。
②DATA/ISOボタンを押すたびに、表示が順次切り替わり -- -- -- →AV＋TV→ -- -- -- と表示します。LCDに表示されたデータが写し込まれます。

10. 中枠誤使用警告
(バーコードフィルム使用時)

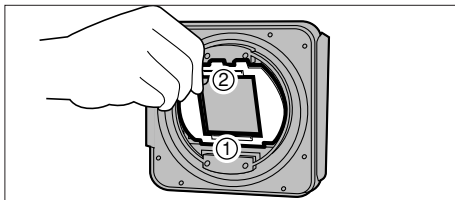
例：220の中枠に120のフィルムを装てんした場合

1コマ目をセットした後にホルダーLCD表示部の120/220の表示が点滅するときは、中枠とフィルムのタイプが一致していません。再度、中枠とフィルムを確認して合わせてください。一致していないまま使用すると、ピント不良になりますので､ご注意ください。

11. トータルショット数の見方

レンズのトータルショット表示例

トータルショットボタンを押すと、カメライラストとトータルショット数が、レンズ→本体→ホルダーの順に点滅表示します。約3秒でISO表示に戻ります。トータルショット数は、旧タイプのレンズでは表示できません。ショット数は100単位の精度で表示します。下2けたは常に00表示になります。オーバーホール、定期点検などの目安にご利用ください。

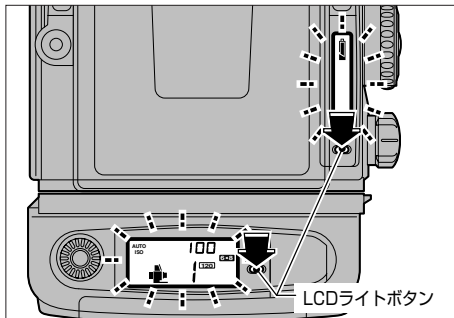
＊トータルショット数は、出荷検査のため200コマ程度のショット数を表示している製品もありますので、あらかじめ了承願います。

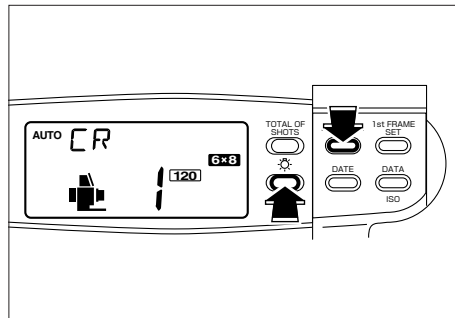
ロールフィルムホルダーⅢの使い方

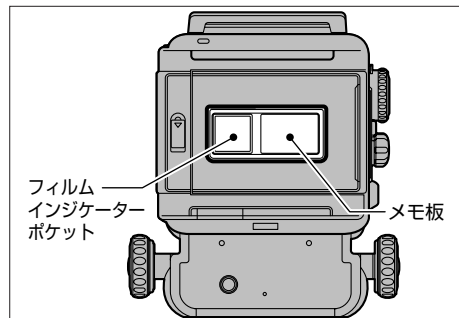
12. フォーマットマスクの交換

ロールフィルムホルダーⅢはマスクを交換して画面サイズが変更できます。マスクのつまみを上側にして最初にホルダーの下側にマスクを入れ、次にマスクの上側のツマミを下げてマスクをホルダーにロックします。取り付けたマスクのサイズがLCDに表示されます。表示が異なる場合は、マスクを正しく付け直してください。マスク交換すると、カメラは撮影枚数を検知し、6×8同様に最終コマの警告ブザーが鳴ります。

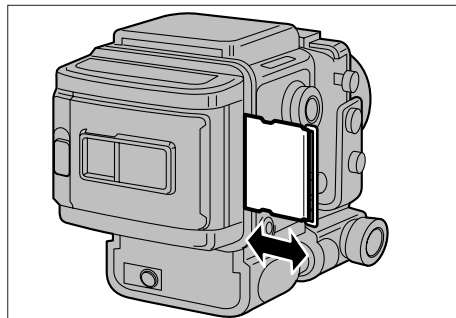
	撮影枚数	
マスク	120	220
6×7	10exp.	20exp.
6×6	12exp.	24exp.
6×4.5	16exp.	32exp.

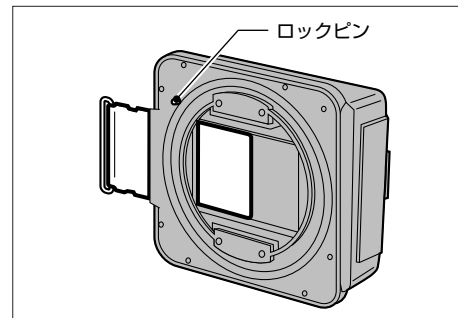
＊フォーマットマスクの交換は1コマ目セットの前に行ってください。撮影途中でのマスクの交換はできません。本体LCDの⚠とホルダーLCDのサイズ表示が点滅しシャッターロックが掛かります。
＊フォーマットマスクを交換したときは、フォーカシングスクリーンもマスクのサイズに合わせて取り替えてください(37ページ参照)。
＊6×4.5のフォーマットマスクを装着すると、セットしてあった写し込み設定はすべてクリアーされますので、再度、設定を行ってください。

13. LCD(液晶)のバックライト照明

ロールフィルムホルダーⅢを本体に取り付け、本体またはホルダーのLCDライトボタンを押すと、本体とホルダーのLCDが両方共、光ります(ホルダーは単体でもLCDライトボタンを押すと光ります)。
LCDライトボタンを一回押すたびに、LCD表示部が約5秒間光ります。
LCDライトボタンを5秒以上押し続けると、押し続ける間中光り続け､離すと消灯します。

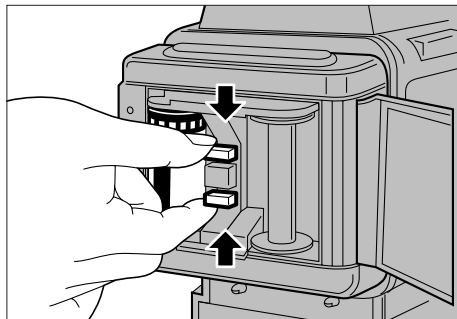
14. フィルムの種類表示

バーコードシステムフィルムを使用すると、フィルムの種類を表示することができます。
①ISO表示をAUTO/ISOに合わせます。
②LCDライトボタンとFRAME No.ボタンを同時に2秒間押します。
③LCDにフィルムの種類（カラーネガ：“CN” カラーリバーサル：“CR” 黒/白：“BW”が点滅表示されます。
④LCDライトボタンを押すとフィルムの種類が点灯し、セット完了です。
⑤ISO数値に戻す場合はLCDライトボタンとFRAME No.ボタンを同時に2秒間押し、フィルム種類の表示を点滅させます。UP/DOWNダイヤルをUP、DOWNどちらかに1クリック回すとISO数値に変わり点滅します。LCDライトボタンを押すとISO数値が点灯し、セット完了です。

15. メモ板・フィルムインジケーターポケットの使い方

メモ板は、撮影中に必要な事項などをメモするための白板です。エンピツは消しゴムで消すことができます。
フィルムインジケーターポケットに使用するフィルム外装箱のふたを挿入すると、装てんしたフィルムの種別が常に確認できるため、便利です。

16. 引きぶたの挿入、引き出しと収納

引きぶたは、ロールフィルムホルダーⅢの挿入ガイドに押し当てれば、溝にスムーズに挿入できますので、奥まで押し込みます。挿入ガイドに白色表示があり、暗所でも容易に分かります。引き抜くときは、取っ手を持って引き抜きます。

＊ロールフィルムホルダーⅢが本体から外された状態では、安全のため、引きぶたを引き抜くことはできません。
＊引きぶたの表裏はありません。

ロールフィルムホルダーⅢ単体で何らかの理由で引きぶたを引き抜く場合は、ロックピンを押しながら、引きぶたを引いてください。

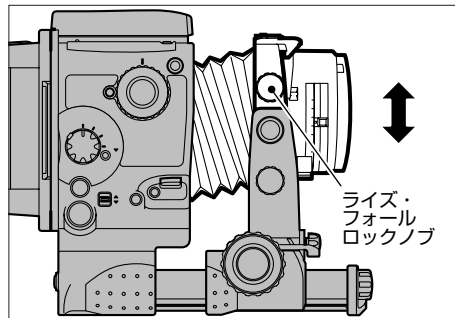
＊撮影後、引き抜いた引きぶたは、置き忘れや紛失防止のため、裏ぶたに収納ポケットがありますので、必ず差し込んでください。

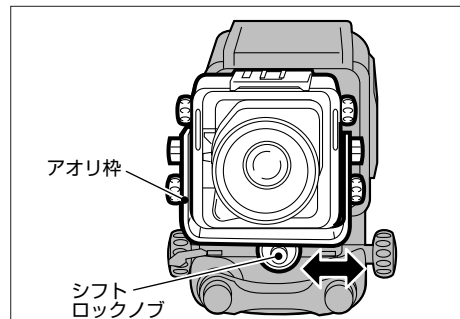
17. フィルムの巻き上げと取り出し

カメラはモータードライブ機構となっていますので、レリーズ後、フィルムを自動巻き上げします。カウンターに“E”が表示されてから裏ぶたを開け、中枠を取り外してフィルムを取り出します。
取り出したフィルムは、エンドシールでしっかりはり付けて、巻きゆるみのないようにします。

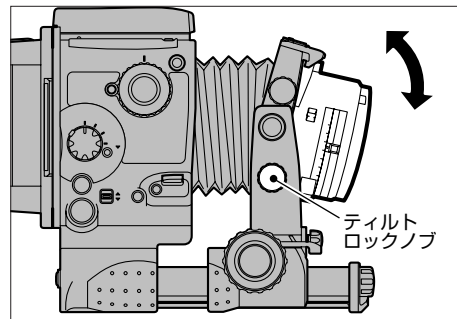
アオリ操作

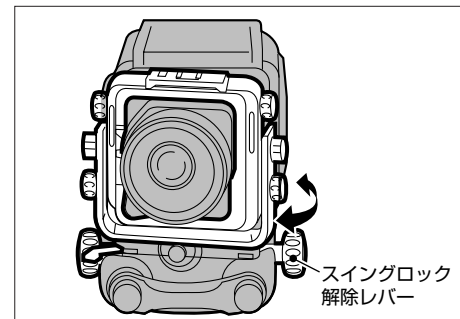
※GX680ⅢSはアオリ機構なしです。

アオリとは、レンズの光軸をフィルムの中心から外したり、フィルム面と光軸を斜めに交差させるなど、レンズの光軸が画面の中心に垂直に交わるカメラの基本的パターンをくずすことにより、パースペクティブを自由にコントロールすることや、ピントの合う面を自由に選び出すことを目的とした操作です。
そのアオリ効果としては、被写体の形を目的に応じて画像修正したり、奥行きのある被写体でも、全域にわたってシャープなピントの写真を撮ることができ、そしてカメラの位置やアングルを変えずに、被写体の画面位置のコントロールができるものです。
アオリ機構を大別すると、光軸を回転移動させる光学アオリ（ティルト・スイング）と、フィルムとレンズ面を平行移動させるボードずらし（ライズ・フォール、シフト）に区分されますが、総称して一般的には、すべてをアオリと称しています。

1. ライズ・フォール

レンズ面とフィルム面を上下に垂直移動させる機構です。ライズは上方向、フォールは下方向のずらし機能を称します。
レンズ台座両側にあるノブをゆるめて、レンズを上下させることでライズ・フォールができます。
一般的には、建物を垂直に撮ったり、人物のスタイルを良くしたりする表現に使用します。

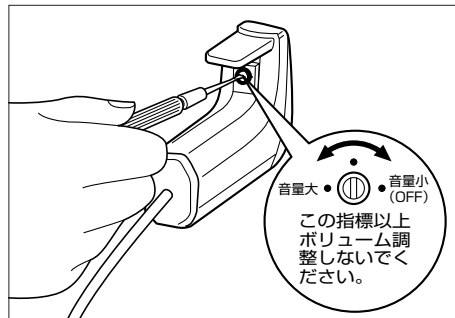
2. シフト

レンズ面とフィルム面を、左右に平行移動させる機能です。
アオリ枠台座中央のシフトロックノブをゆるめて、アオリ枠を左右に移動してシフトができます。
一般的には、カメラ位置を変えずに、被写体の画面位置をコントロールするフレーミングに使用します。
スイングによる光軸移動の修正に、シフトを複合して使用します。

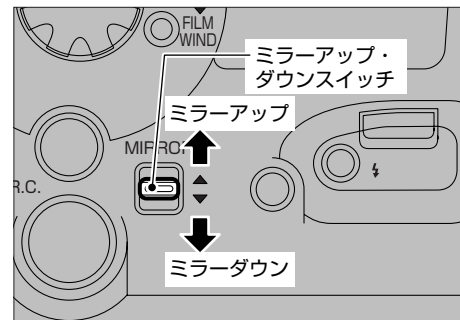
3. ティルト

水平方向を軸として、前後に回転移動させる機能です。アオリ枠両側にあるノブをゆるめて、レンズを前後回転させることでティルトができます。
一般的には、奥行きのある被写体を絞り込み操作によらず、手前から奥までのピントを合わせるときに使用します。

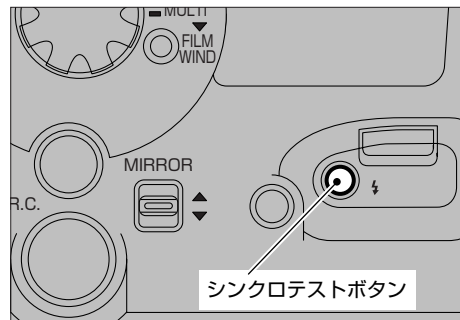
4. スイング

垂直方向を軸として、左右に回転移動させる機能です。レンズ側から見て、右側のフォーカシングノブの横にあるレバーを押しながら、アオリ枠を左右に回転させることによりスイングができます。
一般的には、ティルトの目的と同じですが、被写体のパースペクティブコントロールに使用されます。

＊これらのアオリは、複合して使用するケースがほとんどです。アオリ操作の原理、テクニックは、カメラ誌の別冊号など専門書を参照ください。

＊アオリ操作によってゆるめたノブ類は、必ず締め付けてから撮影してください。ノブゆるみの状態は、カメラぶれの原因となります。
＊アオリ操作の撮影完了後は、すべてのアオリ部を標準位置に戻してください。標準位置のつもりでアオリの戻し忘れがあると、片ボケなどで周辺画像が劣化します。
＊標準蛇腹で蛇腹が縮んだ状態では、アオリ機能が十分に発揮できなくなります。その場合には、広角蛇腹に交換してください。

1. 異常露出時の警告ブザー音調節

±2ステップ以上の異常露出時には、リモートレリーズⅢのグリップ内に内蔵した警告電子ブザー音(700Hz)が5秒間、断続して鳴ります。
このブザー音は、ボリューム調節によって音量を変えることができます。右へ回すことでOFF、左へ回すことで音量が大きくなります。好みの音量に調節してください。
破損防止のため、ボリュームは左右のストップ以上、無理に回さないでください
（ボッチが目安）。

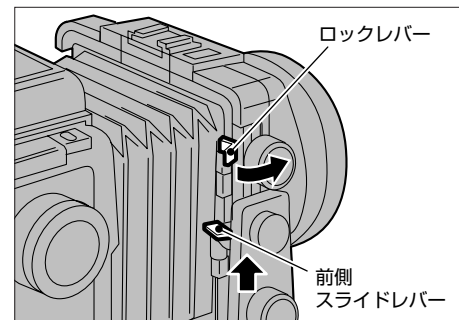
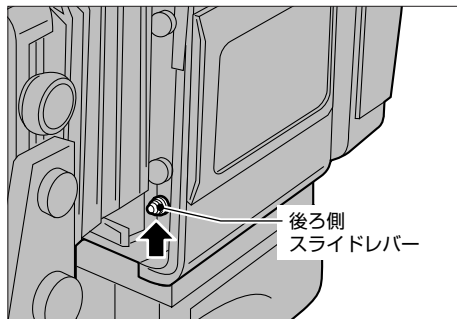
2. ミラーアップ撮影

クローズアップ撮影などで長時間露出を必要とする場合や、動く被写体をミラー駆動によるタイムラグをなくして、瞬時に撮影する場合は、ミラーアップ撮影をします。
あらかじめファインダーでピントを合わせた後、本体側面のミラーアップ・ダウンスイッチを▲方向に動かすと、ミラーアップします。ミラーアップ撮影終了時は、スイッチを▼方向にダウンさせます。
特殊な使い方として、GX680Ⅲにリンホフボード付の大判レンズを使用する場合は、ミラーアップが必要となります。この場合、別売りのLFレンズボードアダプターが必要となります(39ページ参照)。

3. シンクロテストボタンの使い方

ホットシュー及びシンクロソケットにコード接続したストロボを、本体側面のシンクロテストボタンを押すことにより、発光テストが可能となります。
ストロボの露出測定、撮影前の予備発光などがレリーズ操作することなく可能となり、同時にシンクロコードの断線、接続不良もあらかじめチェックができます。

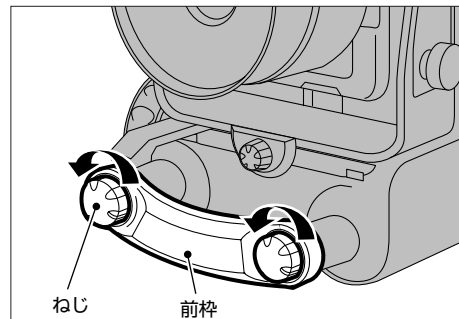
＊シンクロテストボタンの同調テストは、シンクロソケットまでの通電をチェックするものです。シャッターのX接点は使用していないため、シャッターの同調テストではありません。フィルム装てんする前に裏ぶたを開いて、レリーズボタンによる確実な同調テストを実施してください。

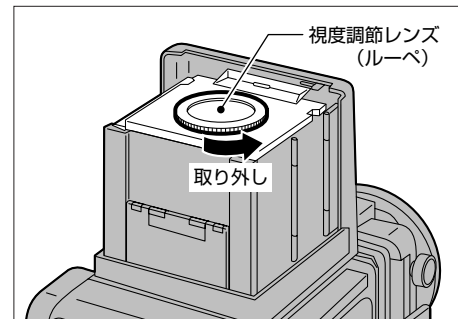
4. フォーカシングスクリーンの交換

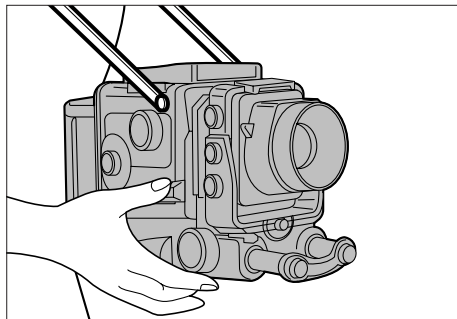
本体に標準装備されたスクリーンは、中央にマイクロプリズムが付いた全面マットのタイプです。複写や商品撮影など、水平、垂直を重視する撮影には、10mm角に格子をカットしたタイプ（フォーカシングスクリーンB）が別売りであります。
ピントフードを外し、スクリーン押さえレバーを解除した後、スクリーン枠を持ち上げて交換します。

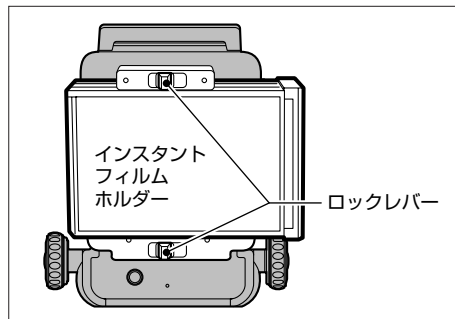
5. 蛇腹の交換

アオリ操作を必要とする場合は広角蛇腹、クローズアップには長尺蛇腹、目的に合わせて蛇腹は交換可能です。
交換の方法は、ホルダーから見て、レンズ台座裏面右側のロックレバーを解除し、スライドレバーを上方向にスライドさせると前側が外れます。

後ろ側はレンズから見て、本体前面の右側のレバーを上方向にスライドさせます。
取り付け方は前・後ろ共、蛇腹の枠をレバーの反対側にある押さえ板に挿入した後、各々のレバーを下方向にスライドして固定します。

＊蛇腹の外れに関しては、スタンバイモニターでは警告しませんので十分ご注意ください。

6. 延長レールの取り付け（近接撮影）

ビューカメラのように、延長レールを取り付けると、さらに近接撮影の領域が拡大します。フォーカシングレール前面にある両側のねじをゆるめて前枠を外します。別売りの延長レールを継ぎ足し、前枠を取り付けてからねじ止めします。

7. ファインダーフードのルーペ交換

ファインダーフードには、2.5倍のルーペが内蔵されています。標準装備は－1ディオプターの視度ですが、他に－4～＋3ディオプターの視度ルーペを別売りしています。ご自分の視度に合ったタイプをご使用ください。
ルーペはバヨネットでルーペ板に取り付けられています。左へ回転することで外れます。

8. カメラの構え方

手持ち撮影する場合には、両手でカメラをガッチリ構えます。左手でフォーカシング、右手親指でレリーズ操作する構え方が、最もカメラホールドが安定します。
別売りのネックストラップⅢを使用すれば、さらに安定したカメラ操作が可能です。

9. インスタントフィルムの撮影

インスタントフィルムホルダーを取り付ければ、フジインスタントフィルムFP-100C(カラー)、FP-100B(B/W)及び同サイズのピールアパートタイプのインスタントフィルムが使用できます。
「インスタントフィルムホルダー(Ⅰ)」を取り付けた場合は、モード切り替えスイッチをMULTIモードにします。
「インスタントフィルムホルダーⅡ」を取り付けた場合には、SINGLE・CONTINUE・MULTI各々のモードで撮影可能です。

10. 大判レンズの使用法

別売りのLFレンズボードアダプターを使用すれば、リンホフテヒニカタイプのボード付大判レンズが使用できます。
ただし、シャッターシステムが違うため、ミラーアップ後、大判レンズのレリーズ操作で撮影することとなります。モードダイヤルをMULTIモードにセットします。フィルムの給送はフィルムワインドボタンで行います。フィルムワインドボタンはMULTIモード以外では作動しません。LFレンズボードアダプター使用時は、本体LCDの⚠とホルダーLCDのレンズイラスト部が点滅しますが、そのままご使用ください。

●取り付け可能レンズ
標準レール:フジノンCM180/ A180/SF180
延長レール:フジノンCM210/CM250
/A240/T300

＊上記以外のレンズを使用する場合、ミラーに後群レンズが当たらないこと（レンズボード裏面より、後群レンズが飛び出していないこと）を確認してください。
＊CM180、CM210、CM250を使用の場合は、LFボードアダプター内のスポンジを取り外してご使用ください。

カメラ取扱上のご注意

カメラは精密機械です。取り扱いには次のようなことに十分ご注意ください。

- 雨や水滴が付いたときは、乾いた布で良くふいて乾かしてください。また海辺での撮影の後は、塩分が残らないように良くふいておいてください。
- 汚れ落としに、シンナー・アルコールなどの溶剤は使用しないでください。
ブロアーブラシでほこりを払い、カメラの外側はシリコンクロスなどの柔らかい布でふいてください。
- レンズやファインダーなどのほこりは、レンズブラシでごみを取り去って、ブロアーで吹き飛ばしてください。指のあとなどは、清潔な木綿(一度洗ったものが良い)に市販のレンズクリーナーを含ませて、中心部から外側へ、らせん状にゆっくりふき取ります。
- 一般に電気系のトラブルは、接点部の汚れやごみが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電池の接点や各部の接点に電池の液漏れや手油などによる汚れ、塩分や特殊ガスによる腐蝕、あるいはごみなどが付いていないかチェックしてみてください。
汚れやごみを取り除いても不具合の場合は、当社の各サービスステーションで点検を受けてください。
接点不良は、ごみの付着が多いと思われます。ブロアーブラシでごみを取り去って、ブロアーで吹き飛ばしてください。
- ミラーやフォーカシングスクリーンの裏面は傷が付きやすいため、この部分は特に手を触れないでください。
- 水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社の各サービスステーションにご相談ください。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検をおすすめいたします。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には、点検や試し撮りをされるようにしてください。

LCD(液晶)表示について

- 約60℃の高温では、液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがありますが、これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

電池について

- 低温下では、電池は性能が低下する性質を持っています。常温に戻れば性能は回復します。低温下での撮影には、新しい電池を使用し、予備の電池をポケットなどに入れて、暖めながら交互に使うなどの方法をとってください。消耗した電池では低温時、カメラが作動しなくなることがあります。
- バッテリーマークの表示が“ ”になりましたら、電池交換が必要となりますので、予備の電池と交換してください。

保管について

- 夏期は、高温の自動車の中や湿気のある場所に長時間、放置しないでください。
- カメラを保管するときは、湿気、ほこり、熱の影響のないところに収納してください。レンズには、必ずレンズキャップをかぶせてください。
- ナフタリンなど防虫剤のガスは、カメラにもフィルムにも有害ですから、たんすなどへの収納は避けてください。

アフターサービスについて

お手持ちの製品が故障した場合には、次の要領で修理させていただきます。それ以外の責はご容赦いただきます。修理は、ご購入店または弊社フジサービスステーションに直接お申し出ください。なお、保証、使い方などご不明の点につきましても、裏面記載のお近くの弊社営業所やフジサービスステーションをご利用ください。

■無料修理

ご購入年月日、販売店名の記入された、ご購入日より1年以内の保証書が添付されている修理品は、保証書に記載されている内容の範囲内で、無料修理をさせていただきます。
※詳しくは、保証書に記載されている製品保証規定をご覧ください。

■有料修理

保証期間を過ぎた修理は、原則として有料となります。保証期間内であっても、下記のような修理品はすべて有料となります。また運賃諸掛かりは、お客様にご負担願います。

1. 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
2. 保証書にご購入年月日、販売店名が記入されていない場合、または字句が書き換えられている場合。
3. フジサービスステーション以外で分解、修理されたもの。
4. 火災、地震、風水害などの天災による損傷、故障。
5. お取扱上の不注意（使用説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水掛かり、砂・泥の付着、カメラ内部への水・砂・泥の入り込みなど）、保管上の不備（高温多湿やナフタリン、しょうのうの入った場所での保管）、お手入れの不備（かび発生など）により生じた故障。
6. 上記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
7. 各部点検、精密検査、分解掃除などを特別に依頼されたもの。

■修理不能

浸（冠）水、強度の衝撃、その他で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの、及び部品の手当が困難なものなどは修理できない場合もありますので、お近くのフジサービスステーションにお問い合わせください。

■修理部品の保有期間

本機の補修用部品は、10年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。なお、部品保有期間終了後でも修理できる場合もありますので、詳しくはご購入店かお近くのフジサービスステーションにお問い合わせください。

■修理ご依頼に際してのご注意

1. 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添えてください。
2. ご購入店やフジサービスステーションの窓口で、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。故障の状態によっては、事故となったフィルムなどを添えてくださると修理作業の参考になります。
3. 修理箇所のご指定がないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
4. 修理料金が高く見込まれる修理のときは、「○○○○円以上は連絡してほしい」と金額をご指定ください。ご指定のないときは、12,000円以内の料金で修理完了する場合は修理をすすめさせていただきます。
5. 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
6. 修理品を郵送される場合は、購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
7. 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合はフジサービスステーションで、お預かりしてから通常7～10日位をご予定ください。

■海外旅行中の故障

海外旅行中に故障した場合は、海外各地の富士フイルム海外支店または各国の富士フイルム代理店をご利用ください。
富士フイルム海外支店、代理店の所在地一覧表はお近くのフジサービスステーションにご請求ください。なお海外での修理はすべて有料となりますのでご了承ください。

主な仕様

カメラ型式
6×8cm判　バーコードシステム対応レンズシャッター式一眼レフカメラ

画面サイズ
マルチフォーマット　縦横レボルビング式
6×8cm判（実画面寸法　56 × 76mm）
6×7cm判（実画面寸法　56 × 69mm）
6×6cm判（実画面寸法　56 × 56mm）
6×4.5cm判（実画面寸法　56 × 41.5mm）
（6×7cm判、6×6cm判、6×4.5cm判：別売りフォーマットマスクを使用）

使用フィルム

	6×8cm	6×7cm	6×6cm	6×4.5cm
120 1/2 ロールフィルム	4枚撮り	5枚撮り	6枚撮り	8枚撮り
120ロールフィルム	9枚撮り	10枚撮り	12枚撮り	16枚撮り
220ロールフィルム	18枚撮り	20枚撮り	24枚撮り	32枚撮り

インスタントフィルム（フォトラマFPシリーズ及び同種感材）　専用インスタントフィルムホルダー

レンズ
交換式（別売り現行レンズ使用可）標準レンズ：EBCフジノンGX M135mm f5.6
マウント形式：レンズボード交換式
フィルター径：ねじ径＝φ82mm　外径＝φ85mm
GX M(Ⅲ型用)レンズにレンズ単体総ショットカウンター情報記憶機能内蔵

シャッター
＃1、電子制御式レンズシャッター　B･8～1/400秒 絞り調節レバー・
絞り込みレバー付 交換レンズの内蔵モーターでシャッターセット及びレリーズ

シンクロ
X接点：ストロボ全速度同調(M級バルブ使用不可)
ホットシュー(レンズ台座)：シンクロソケット(本体)を装備　シンクロテストボタン付

レリーズ
電磁レリーズ
専用リモートレリーズⅢ　1m／5m(別売り)

ミラー
本体内蔵モーターでオートリターン式
ミラーアップ……アップ・ダウン操作共スイッチによる電動式

多重露出
MULTIモードで可能　フィルムワインドボタンで多重露出後フィルム給送可

ファインダー
一眼レフ式ウエストレベルスクリーン
フォーカシングスクリーン交換式(標準装備　マイクロマット式)
折りたたみファインダーフードを標準装備(ワンタッチたたみ込み式)
●ピントルーペ内蔵(倍率2.5、視度－1ディオプター標準)
●ピントルーペ交換可(－4、－3、－2、0、＋1、＋2、＋3)(別売り)
アングルファインダーⅡ，オプションで取り付け可
視野率　97％(ファインダー全視野8×8cm判以上)
レボルビングに連動して画面位置警告板がファインダー内縦位置、横位置のマスク切り替えを表示

焦点調節
左右ノブ回転による蛇腹繰り出し式(ロックレバー付)
●最大繰り出し量65mm　●延長レール(長さ40mm、80mm)取り付け可　●蛇腹交換式(長尺蛇腹、広角蛇腹は別売り)

アオリ機構（GX680ⅢSを除く）	レンズ面アオリ可能 ●シフト：左右各15mm　●ライズ：15mm　●フォール：13mm　●スイング：左右各12°　●ティルト：上下各12° ＊ただし、ボードずらし、回転アオリを複合した場合、レンズによってはこの値を満足しないことがあります。
露光量表示	フィルム面反射照度(ダイレクト)測光によるオーバー・アンダー露出警告（ISO100　EV5～19） ＊本体LCD表示　＊リモートレリーズⅡ使用時、電子音警告
本体LCD表示	電源のON・OFF、撮影のスタンバイ、バッテリーチェック、異常露出警告、カメラ異常作動警告
電子音警告	フィルムラストコマ警告、異常露出警告（リモートレリーズⅡ使用時、音量調節ボリューム付）
電源	リチウム電池CR123A相当品3本(9V)　AC電源(別売り)
その他	●水準器付 ●LFレンズボードアダプター(別売り)にて大判レンズの使用可 ＊リンホフテクニカタイプボード付のこと(大判レンズ使用の場合はミラーアップ操作による)
寸法・重量	GX680Ⅲ　W 188 × L 222 × H 213mm　2690g GX680ⅢS　W 188 × L 222 × H 187mm　2350g (本体、折りたたみファインダーフード、標準蛇腹、ファインダースクリーン付、電池なし) GX680Ⅲ　W 188 × L 274 × H 213mm　4070g GX680ⅢS　W 188 × L 274 × H 187mm　3730g 〔本体＋標準付属品、フジノンGX M135mm、ロールフィルムホルダーⅢ（中枠120付）、電池なし〕
本体付属品	折りたたみファインダーフード・標準蛇腹・フォーカシングスクリーン・前後ボディーキャップ・リチウム電池（3本）
ロールフィルムホルダーⅢ	レボルビング交換式 120/220の切り替え：ロールフィルムホルダー共用で中枠を交換 ●単体で1コマ目自動セット可　ISOセット機能付(ISO25～3200　1/3ステップ刻み) ●バーコードシステムフィルム対応(ISO自動読み取りセット、120/220検知、フィルム種別検知) ●画面外データ写し込み機能内蔵(年月日／時分、撮影データ、追い番) ●LCD表示機能(フィルムカウンター、デート、撮影データ、画面サイズ、電池残量表示、トータルショット数、120/220識別表示、カメラセルフチェック警告表示)　●LCDバックライト照明(EL式)　●マルチフォーマットのマスク交換式(フォーマットマスク別売り)　●引きぶた収納ポケット付、メモ板付、フィルムインジケーターポケット付 ●電源　リチウム電池CR2相当品2本(6V)
フィルム送り	スタートマーク合わせ不要自動給送 ●モータードライブ(S・C・Mモード切り替え式)　●最終コマ告知ブザー付　●最終コマ撮影後自動巻き上げ ●フィルム送りスピード1コマ約1秒(6×8時)
フィルムカウンター	液晶表示　順算式(フィルム巻き上げ終了後、E表示)

＊仕様・性能は、予告なく変更する場合がありますのでご了承願います。

富士写真フイルム株式会社

●本製品についてのお問い合わせ

富士フイルムプロフェッショナル写真部	〒106-8620	東京都港区西麻布2-26-30	TEL(03)3406-2051
富士フイルムプロフェッショナル写真部		東京販売グループ	TEL(03)3406-2094
富士フイルム大阪支社	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-5-11	TEL(06)6205-6471
富士フイルム札幌営業所	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL(011)241-7164
富士フイルム仙台営業所	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL(022)265-2121
富士フイルム名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル	TEL(052)203-5263
富士フイルム広島営業所	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL(082)256-3311
富士フイルム福岡営業所	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL(092)281-0231

●修理の受付

東京フジサービスステーション	〒105-0022	東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL(03)3436-1315
東京／富士フォトサロン	〒104-0061	東京都中央区銀座5-1 スキヤ橋センター	TEL(03)3571-9411
大阪フジサービスステーション	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル	TEL(06)6260-0915
大阪／富士フォトサロン	〒530-0001	大阪市北区梅田1-9-20 大阪マルビル	TEL(06)6346-0222
札幌フジサービスステーション	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL(011)222-3973
仙台フジサービスステーション	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL(022)265-2149
新潟フジサービスステーション	〒951-8067	新潟市本町通7番町1153 本町通ビル	TEL(025)223-7731
静岡フジサービスステーション	〒420-0859	静岡市栄町1-5 殖産ビル	TEL(054)255-2465
名古屋フジサービスステーション	〒460-0008	名古屋市中区栄1-12-19	TEL(052)202-1851
金沢フジサービスステーション	〒920-0864	金沢市高岡町1-39 住友生命金沢高岡町ビル	TEL(0762)63-3466
高松フジサービスステーション	〒760-0015	高松市紫雲町3-1 香西第2マンション	TEL(0878)34-8355
広島フジサービスステーション	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL(082)256-3511
福岡フジサービスステーション	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL(092)281-4863
鹿児島フジサービスステーション	〒892-0838	鹿児島市新屋敷町16 公社ビル	TEL(099)226-2515

＊土曜、日曜、祝日、年末年始、夏期休暇は休業させていただきます。
●東京フジサービスステーションは、通常の土曜日（祝日、年末年始、夏期休暇以外）は営業しております。
　ただし、受け渡し業務のみとなります。
●大阪／富士フォトサロンは上記休業日のほか、毎月第3水曜日も休業させていただきます。

●富士フイルム製品のお問い合わせ

お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日　午前9：30～午後5：00）TEL(03)3406-2981

この用紙は、再生紙
を使用しています。

Printed in Japan

FGS-991105-FG-03